

6. 第30回 ヘルペスウイルス研究会 報告

片野 晴隆¹⁾, 吉崎 智一²⁾

1) 国立感染症研究所 感染病理部

2) 金沢大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

ヘルペスウイルス研究会は、ヘルペスウイルスの研究者の交流を通じて、ヘルペスウイルス研究や関連領域の発展に寄与することを目的に1986年(昭和61年)に設立され、年次集会の開催や、海外の研究者との国際的な活動・連絡などの事業を行ってきた。今年度の年次集会は2016年6月16日から18日まで、東京都府中市 セミナーハウス クロスウエーブ府中で開催され、世話人代表は国立感染症研の片野と金沢大学の吉崎が務めた。

今回がちょうど第30回に当たることから、過去のヘルペスウイルス研究会を振り返り、歴代世話人代表と開催地一覧をプログラムに掲載した。第1回ヘルペスウイルス研究会は1986年7月に岐阜県各務原市にある内藤記念くすり博物館で山西弘一先生(現 阪大微研会理事長)を世話人代表として開催された。創立時の世話人は川名 尚, 倉田 毅, 平井莞二, 柳 壹夫, 梅根健一, 西山幸廣, 水野文雄, 山西弘一(敬称略)であった。2014年には山西弘一先生, 川口寧先生(東大医科研), 森康子先生(神戸大)がオーガナイザーとなり、神戸市でInternational Herpesvirus Workshop (IHW)が開催された。創立から今日まで、途中、有珠山大噴火や東日本大震災で開催地の変更を余儀なくされたことはあったが、IHWを含めた31年間、1年も途切

れることなく毎年開催されていることから、日本のヘルペスウイルス研究者が本研究会をいかに大切に考えているかが伺われる。

本年の研究会への参加者は88名であり、北は仙台から南は沖縄まで、基礎ではウイルス学、微生物学、病理学、免疫学など、臨床は小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科など、多岐にわたる分野から参加者があった。会場のクロスウエーブ府中は武蔵野の台地に聳え立つ、研修専用の大会議場であり、都内でありながら、周辺には観光名所どころか、商店すらない。都会の喧騒から隔絶された陸の孤島で、参加者はただ会議に参加するのみという環境である。第30回を記念し、創立時の世話人でもある山西弘一、倉田毅の両先生による記念講演を開催した。山西先生は創立時の話から、長年にわたるご自身のヘルペスウイルス研究の歴史を語られた。ヘルペスウイルス6と突発性発疹の関連の発見は日本のヘルペスウイルス研究が誇る金字塔であり、何度聞いてもサイエンスの新鮮な興奮を感じることのできる話であった。倉田先生は天然痘撲滅プロジェクトの話とされ、フィールドワークで撮られた大量の写真と情報は圧巻であった。両先生は、研究以外にも、多くの示唆に富むお話しをしていただき、現役のわれわれに奮起を促し、大きな励みになった。もう一つの特別講演では、藤田保健衛生大学耳鼻咽喉科の加藤久幸先生よりHPV関連中咽頭癌の発癌と臨床的特徴についてご講演いただいた。HPV陽性と陰性の癌の違いを専門外の研究者にも分かるように例を挙げながら、お示しいただいた。ウイルス発癌は一部のヘルペスウイルスにも共通する話題であり、多くの参加者が大きな興味を持って、聞き入っていた。

一般演題は昨年と同数の40題が集まり、活発な議論が展開された。演題は、9つのヒトヘルペスウイルス(HHV-1からHHV-8であるが、最近ではHHV-6AとHHV-6Bを別ウイルスとして数えるのが一般的。)を網羅しており、基礎分野ではウイルスの侵入、複製、放出、遺伝子、タンパク発現、病原性、発癌性などについて、臨床では小児、眼科、癌、予後因子などの演題が並び、会場からは活発な討論が行われた。本研究会は毎回「研究交流会」を開催し、参加

連絡先

〒162-8640

東京都新宿区戸山1-23-1

国立感染症研究所 感染病理部

TEL: 03-5285-1111

FAX: 03-5285-1189

E-mail: katano@nih.go.jp

〒920-8641

石川県金沢市宝町13-1

金沢大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

TEL: 076-265-2413

FAX: 076-234-4265

E-mail: tomoy@med.kanazawa-u.ac.jp

者同士が夜遅くまで密に親睦を深めることができる点を最大の特徴としており、日本のヘルペスウイルス研究はこの研究者同士の密な連携の上に発展してきた。今回も金沢からの銘酒を片手に、交流が促進したことは言うまでもない。次年度は鳥根大学微生物学の吉山裕規先生と鳥取大学眼

科の宮崎大先生を世話人代表とし、鳥根県松江市で開催される予定である。なお、本研究会開催に当たり日本ウイルス学会からはご支援をいただいております。ここに感謝の意を表します。